

お取引先さま各位

カカオ・チョコレート週刊ニュース 66号

2013/09/16 発行
株式会社 立花商店
生田 渉

お世話になります。カカオ・チョコレート関連のニュースを前週の出来毎の中から注目ニュースを5本程度ピックアップして、発行しています。カカオやチョコレート中心に取り扱っております弊社と致しましては、広く関係者の方々に読んでいただけるように、少しずつでも有益な情報をお届けできればと考えております。宜しくお願い致します。

1、市況の動き：高値継続。じりじりと再度1700£超えを狙う展開。

①週最高：12月LDN市場£1,699 / 12月NY市場\$2,601 (9/13) 先週比 **LDN-£5/NY+\$34**
②週最低：12月LDN市場£1,684 / 12月NY市場\$2,554 (9/11,9/9) 先週比 **LDN+£71/NY+\$136**
週内価格差額 (①-②)：LDN市場£91 (傾向↑) / NY市場\$149 (傾向↑)
週内建玉推移：LDN市場 220,645枚(9/6終了時)⇒ 212,803枚 (9/13終了時) **-7,842枚**
NY市場 194,177枚(9/6終了時)⇒ 201,602枚 (9/13終了時) **+7,485枚**

【9月9日(月)】続落=コートジボワールの天候改善で

続落。主要産地コートジボワールの天候改善を受け、先週付けた1年ぶりの高値をやや下回る水準での値固めとなった。

ニューヨーク市場の12月きりは10ドル(0.4%)安の**2554ドル**で終了。前週末の6日には、一時1年ぶりの高値となる2583ドルを付けていた。

コートジボワールの主な栽培地域では先週、降雨と日照により天候状況が改善。季節外れの乾燥や曇天による打撃が懸念されてきた期近物に対する農家の期待が高まった。

トレーダーらは今後収穫されるカカオ豆の大きさや質を評価するため、生育状況を注意深く観察している。

ロンドン市場の12月きりは15ポンド(0.9%)安の1685ポンドで終了。1年ぶりの高値となった前週末6日の1707ポンドから軟化した。

米国のあるディーラーは「天候は良くなったが、最終的に恩恵があるかどうかはまだ分からない」と指摘。他のディーラーらによると、最近の乾燥気候によるダメージへの懸念が相場の一段安を防いでいるという。

【9月10日(火)】両市場とも反発

両市場とも反発。ニューヨーク市場の12月きりは、16ドル(0.6%)高の2570ドルと、高値(2578ドル)からわずかに下げた水準で引けた。6日には2583ドルまで上昇し、2番ぎりとしては2012年9月後半以来の高値を付けた。

トレーダーによると、主要産地の西アフリカで乾燥気候が続いていることや予想を上回る需要の兆しを背景に、投機筋の買いが加速し相場が上昇していたという。

アトランティック・キャピタル・アドバイザーズのシニアパートナー、ニック・ジェンタイル氏は「ココア相場は値固め局面だ。投資家らはダメージがあるか見極めようと様子見の姿勢を取っている」と述べた。ロンドン市場の12月きりは、3ポンド（0.2%）高の1688ポンドで終了した。

【9月11日（水）】NY、小幅続伸＝ロンドン反落

ニューヨーク市場の12月きりは1ドル（0.04%）高の2571ドルと、小幅続伸して引けた。一時2599ドルまで買い進まれ、1年ぶり高値を付けるとともに、心理的に重要な2600ドルの節目に迫った。

相場を押し上げたのは需要見通しの改善と西アフリカの乾燥天候懸念。引き続き投機筋が買いを入れているという。

RJOFューチャーズのヘクトール・ガルバン氏は「ココアは天候市場の好例だ。乾燥天候でイールド（単位面積当たり収量）が最終的に落ち込むとの懸念に支えられている」と述べた。

ただ、ゴールドマン・サックスはココアの在庫・使用比率が高止まりしていることを指摘した上で、今後3カ月の価格見通しを2400ドル、6～12カ月は2500ドルに据え置いた。ロンドン市場は反落。12月きりは4ポンド（0.2%）安の1684ポンドで取引を終えた。

【9月12日（木）】NY続伸、ロンドン反発

ニューヨーク市場のココア先物は活況のうちに上伸した。世界的に需要が増加する兆しが出る中で、前日に付けた1年ぶり高値2599ドル近辺で推移している。

12月きりは続伸し、20ドル（0.8%）高の2591ドルで引けた。

商品ブローカーのマレックス・スペクトロンは、2013～14年度の世界のカカオ豆需給について、13万4000トンの供給不足になるとの見通しを示した。12～13年度は16万1000トンの供給不足だった。

最近の相場上昇は、コートジボワールの主産地で乾燥した天候となり、生産量が減少する恐れがあることに加え、市場で需要が回復していることが要因となっている。ロンドン市場は反発。12月きりは11ポンド（0.7%）高の1695ポンドで終了した

【9月13日（金）】ニューヨーク、4日続伸＝ロンドンも高い

ニューヨーク市場のココア先物は小幅ながら4日続伸。需要改善の兆候や西アフリカの乾燥天候に支援された。

12月きりは10ドル（0.4%）高の2601ドルで終了。一時は2609ドルと、2番ぎりとしては約1年ぶりの高値を付けた。

マッコーリーのコモディティー・アナリスト、コナ・ハーク氏は「ココアに対しては、依然としてかなり強気を維持している。強い需要と西アフリカの乾燥が理由だ」と話した。

ロンドン市場の12月きりも、4ポンド（0.2%）高の1699ポンドと続伸して引けた。

2、13～14年度の世界カカオ豆市場、13万4000トンの供給不足＝仲介業者見通し(9/13)

英商品ブローカーのマレックス・スペクトロンは12日公表した9月のコモディティ市場レポートで、2013～14年度の世界のカカオ豆市場が13万4000トンの供給不足になるとの見通しを示した。前年度は16万1000トンの供給不足だった。

同社はまた、13～14年度の期末在庫率見通しを40%とし、11～12年度の推計50%から低下すると予想した。

レポートは「国際通貨基金（IMF）や世界銀行が現時点で予想する世界の国内総生産（GDP）成長ペースに合わせて需要が増加した場合、持続的な供給不足を防ぐのは、極度の好天と大幅な高値というめったに見られない組み合わせのみだ」と述べた。同社は、カカオ豆需要の回復が予想以上だとしている。

3、コートジボワール産カカオ豆：9月8日までの着荷数量が139.1万トンに達した。(9/10)

世界最大のカカオ生産国であるコートジボワールのカカオ豆の今シーズンの着荷数量が昨年10月から今年の9月8日現在で139.1万トンに達したことが輸出業者の統計にて判明した。昨シーズンの同時期までの集荷数量は137.4万トンであった為、今シーズンは昨シーズンを上回る集荷数量となっている。輸出業者の統計によれば、アビジャン港とサンペドロ港に集荷されたカカオ豆の9月2日～8日までの1週間での集荷数量は12,000トンで、昨年同週の9,000トンを上回った。

4、降雨がカカオ豆生産に寄与も、黒さや病の懸念高まる＝コートジボワール(9/16)

コートジボワールのカカオ豆主要産地一帯は雨に恵まれ、メインクropp収穫に期待が高まっているが、一方で農家筋は16日、降雨が黒さや病の拡大につながり、初期収穫の豆の適切な乾燥を妨げる恐れがあるとの懸念を示した。

同国のメインクroppの販売シーズンは10月1日から開始されるが、今年は例年以上に厳しい乾燥天候となり、生産減少と需要増大が予測されている。これを受け過去2～3週間のカカオ豆相場は上昇。トレーダーらはカカオ豆のサイズと次期収穫物の品質を測定するために、生育状況を注意深く監視している。

各生産地の農家がロイター通信に対し、先週から収穫が始まったところもあるが、量は少なめにとどまっていると述べた。

西部ガニョア近郊の農家は「樹木にはさやが付き始めた。だが、日照不足で作物に黒い斑点も表れている。現在では深刻な状況ではない」としている。沿岸部産地ササンドラからも同様の報告がされている。また、中西部ダロアの農家は「今週は日照不足だ。今は乾燥が心配だ」と述べた。

5、チョコレート価格を固定したくてたまらない？カカオ原料高騰の背景(9/13)

- ・ココアバターのリシオは、アジア、欧州、アメリカ市場で2008年以来の高い水準
- ・全世界の菓子販売は2013年は2%の成長を遂げた。
- ・チョコレートメーカーはココアバターの在庫積み増しに必死である。

チョコレートメーカーは今年のチョコレート需要期には、ココアバターの価格が非常に高騰している為、

美味しいチョコレートを作る為には高い価格を支払わなければならないだろう。

成長するアジアの中間層からの需要増加と欧州、米国などの主要な消費国での消費回復の影響により 6 カ月前にはトン当たり 4,000 ドルであったココアバターの価格は現在 7,000 ドルまで達している。

制限された供給数量とクリスマス、新年、バレンタインを控え需要に減少傾向がない現在、チョコレートメーカーは高いココアバターを買うしかほとんど方法がなく、一部のメーカーは最終製品価格に転嫁し始めている。

チョコ業界の様な世界的な巨大企業が多く、企業秘密も多い業界では、チョコレートの味を差を決めるレシピは当然のことながら、企業が購入している原料の価格や販売価格の情報開示もされないことが多い。我々が、ココアバターの価格の上昇が自社の製品の値上げに繋がるかをヒアリングした多くのチョコレート企業は返答を断った。ネスレについては、詳細は語らなかったものの、最終商品の値上げは最後の最後的手段であるとだけ語った。

しかしながら、中小のチョコレートメーカーは既に製品の価格を上げ始めている所もあるようだ。

『我々は昨年 1 月から既に 30-40% の値上げを行った。もちろん、多くの顧客は価格の上昇を好んではいない』シンガポールのチョコレートメーカーでパン業界や、アイスクリーム業界などに原料用として販売している Aalst 社の社長であるリチャード・リー氏は言う。

『チョコレートの最需要期は近づいており、ココアバターの価格も下がる様子が見られない中、値上げをしなければ、多くのチョコレートメーカーの製造原価に販売価格がほぼ近くなってしまはずだ』彼は言う。

【成長する新興市場】

世界的な市場調査会社のユーロモニター社によると、2013 年チョコレート愛好家は、740 万トンのチョコレートを消費し、前年対比 2% の成長、また市場規模は 1,100 億ドル（≒約 11 兆円）規模となっている。

この数字は世界的な経済不況で、消費は新興国に牽引されていた 2009 年当時と比較すると 6.9 万トン上昇している。

『アジア諸国と南米諸国では、5-6 年前と比較し、チョコレートを買えるだけの余裕のある中間層が確実に増えつつあることが確認出来る』ユーロモニター社のシニアアナリストのフランシスコ氏は説明する。

『これがチョコレート市場を成長させている主要因です』

同時にクリスマス、バレンタインデー、イースターでは欧州、北米市場では販売が一気に伸びる時期で、チョコレートメーカーにとっては在庫の確保に注意を払う時期だ。

『今から、12 月に使用できる大量のココアバターを購入しようと市場で探しても非常に難しい状態である』北米で最大の磨砕業者 Blommer 社の役員であるジェフ氏は言う。

この先数カ月の使用分でココアバターをまだ購入していない会社は価格交渉に最も弱い立場にならざるを得ないだろう、ジェフ氏は付け加えた。

関連ニュース)

米農務省、余剰砂糖をエタノール生産に活用する計画改善へ＝ビルサック長官(9/10)

ビルサック米農務長官は9日、余剰砂糖をバイオ燃料生産に活用することを目的とした原材料柔軟活用計画（FFP）を改善する意向を明らかにした。

ビルサック農務長官は記者団に対し、農務省は余剰砂糖をエタノール生産に活用するイニシアチブを完全な形にする努力を続けると述べた。米国は、大量の砂糖の供給過剰に直面しており、砂糖補助金は数億ドルかかるとみられている。

FFPは、エタノールブームの初期に導入され、ブラジルと同様、米国でも砂糖を自動車やトラックの燃料源にする目的で作られた。同長官は「納税者が負担するコストを最小限に抑えるため、可能な限りあらゆることを実施するつもりだ」と述べた

*特徴的なチョコレートを毎週ひとつ取り上げて紹介する『今週のチョコレート』を別添にて毎週配信しております！！こちらは何卒、ご愛読頂きますようお願い申し上げます。

*特別の注釈がない記事は全て、基本的にロイター通信社のニュースソースを基に作成したものです。

《お問い合わせ先、配信希望または、停止のご連絡先》

株式会社 立花商店 東京支店 生田

TEL03-5785-3545 w-ikuta@tachibana-grp.co.jp